

佛母寺だより 第13号

発行・佛母寺 〒299-1601 富津市田倉942-13

住職・松原覚樹

Tel:0439-37-2336 Fax:0439-37-2378

上記につながらない時は Tel:03-3451-1853; Fax:03-3451-6094

Website:www.butsumoji.com

今年も余すところあとわずかとなりました。檀信徒の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。きっと、今年一年を振り返りつつ、来年は更に良い年でありますようにと念じておられることと存じます。

「佛母寺だより年末号」をお送りいたします。

山本玄峰老師（般若窟玄峰老大師）は禅宗「無門関」を提唱する中で、「[禅の]よりどころはめいめいの性根玉じゃ。めいめいの性根玉と仏の性根玉と達磨の性根玉と、両鏡相照して中心影像なしというように磨き上げていく.... よりどころはめいめいの本智本能じゃから、それをやむを得ず曇らかしておる鏡を磨くのじゃ。そういうつもりで。」と言う。これは、中国の六祖慧能大師が「菩提もと樹なし。明鏡また台に非ず。本来無一物。何れの処にか塵埃を惹かん」と、宗法を端的にあらわした言葉と一致する。玄峰老師はさらに言う、「自分の本性を知らぬ者は、ぼおツとして歩いておる。ちょうど紙でこしらえた人形がぶら下がっているように見える」と。

よい言葉だと思います。自分の性根玉を見据え、足実地を踏んで歩いて行く。今あるこの命を有り難いことと感謝し、一瞬一瞬の時間を大事にして生きたいものです。

今年の皆様方のご厚情に感謝しつつ、来年も、檀信徒皆様にとって、良いお年でありますよう、心よりご祈念申し上げます。

松原覚樹合掌

佛母寺年末年始の行事のご案内。どなたでもご参加できます。

* 12月30・31日 第4回こどもたちのスポ禅（詳しくは www.butsumoji.com）

* 12月31日～1月1日：～心清らかに新年を迎えよう～

- ・講演 22:00～22:50 九島伸一氏（前ジュネーブ・ニューヨーク国際連合広報局・前国連ダグ・ハマースホルド図書館館長）

TBD「これからの国際社会化の中での日本のあり方」

参加費：無料

・水月会寂庵 除夜釜の茶事 23:00～1:30

大晦日の夜から新年にかけて年越しの茶事です。除夜の侘びた風情のお茶、新年の清々しいお茶、年をまたいで違った世界を佛母寺の茶室、寂庵で味わっていただきます。ゆく年の無事を感謝しつつ、来る年の平穏を祈って。除夜釜お茶代：お一人様 500円

・除夜の鐘 23:45～1:00

釈迦の母、摩耶夫人（摩耶観世音菩薩）を本尊に祀る佛母寺は、安産、子授け、縁結びの寺として広く知られています。また、母の慈悲から、水子とペット供養の寺としてもよく知られています。1年の最後の日、除夜の鐘を撞き、お参りください。

参加費：無料

* 新年の祈祷：1月1日～3日 11:00～11:30

本堂にお集まりください。冥加料：500円

* 正月水子供養祭：1月1日～3日 13:00～13:30

摩耶堂（了 水子地蔵）にお集まりください。冥加料：500円

* 正月ペット供養祭：1月1日～3日 14:00～14:30

ペット供養塔にお集まりください。冥加料：500円

(続)佛母寺ミニ法話(白隠:夜船閑話編)

此において諸子旧書櫃（きゅうしょぎ）を開けば、草稿、蠹魚（とぎょ）の腹中に葬らるゝ者中葉（なかば）に過たり。

稿は紙魚の腹の中に食われてしまったのでした。

そこで弟子たちが古びた箱のふたを開いてみますと草稿は紙魚（しみ）に食われて半分しか残っておりません。半分の草

諸子即ち訂正伝写して、既に五十来紙を見る。

そこで弟子たちはおたがいに訂正し合い、欠けたところをつくろったところ、五十枚ほどの頁数になりました。

即ち封裏（ふうか）して以て京師に寄せんとす。

そこで草稿を小づつみにして京の都の書肆、松月堂へ送ることにしました。

予が馬齒一日も諸子に長たるを以て其端油（たんゆ）を書せんことを責む。

ところが、草稿を京に送るだんだりになったとき、弟子たちがいうには、老師が門中で一番の年上ですから、夜船閑話という草稿のいわれをお書きくださいと責められました。馬齒とは、また、馬齡ともいい、自分の年齢のことをさします。「和漢三才図会」に、馬は齒の数を数えることによってその年齢が判るとあります。つまり、1才の馬は齒が二つ、二才で四つ、三才で六つ。二十七才から次第に齒が白くなり三十二才で上下ことごとく白くなるとあります。ただ年令をとっただけとなげくには、馬齡をかぞえるなどと表現したりします。現在でも、中国の馬市場で、馬の口を開いて馬齡を証明する人がいます。

予も亦辞せずして書す。

白隠禅師も、そういわれてみて辞退することもせず、筆をとることにしました。

云く、師、鶴林に住すること大凡四十年、鉢囊（はつのう）を掛けしより以来、雲水参玄の布衲（ふのう）纒（わす）かに門閭（もんこん）に跨れば、師の毒涎（どくぜん）を甘なひ痛棒をうましとして辞し去ることを忘れるゝ者或は十年或は二十年。

云われるには、白隠禅師、ここ鶴林山松蔭寺に住持したのが享保二年、三十三才、そして夜船閑話の草稿の序文をしためた本年、おん年七十三才、よって大凡四十年ということになります。鉢は僧堂で食事をいただくときの食器であり、囊は頭陀袋であることは説明いりま

せんね。これらは行脚のときに必ず身のまわりにつけ、投宿先きで用いますが、それを身のまわりにつけずに「掛けしより」とありますので、松蔭寺に住職となった、もう昔のように行脚せず、一寺の住職として布教に専念しています、という意味です。雲水参玄の布衲子とは、雲水たちが雲水衣を身につけて松蔭寺で参禅することをいいます。わずかに門閭に跨れば、師の毒涎に甘なひ。わずかでも松蔭寺のしきいをまたげば、白隠禅師の室内で白隠禅師の毒の涎といますから、きびしいおしえも甘受し、です。

「痛棒をうましとして辞し去ることを忘れるゝ者或は十年或は二十年」。白隠禅師の痛棒さえ、をうましと。幸いとは思わずありがたいことと受けとって、修行三昧の雲水、十年、二十年在錫というものはザラですよ、ということです。

鵠林々下の塵と成る事もまた総に顧みざる底あり。

鵠林々下とは松蔭寺のこと、白隠禅師の膝下のことです。塵となるとは、死んでもいい、そんなこと一向にかまわない。それが、顧みざる底あり、です。

尽く是叢林の頭角四方の精英なり。

昔の僧堂では修行する僧が現在の何倍もの数でした。ある僧堂では何百人もの雲水が修行し、黒依の雲衲が多数集まって修行する光景は木が林立するかのようで、そこで叢林とよばれました。叢とは、やぶ。叢林で、僧のあつまる所、の意です。ですから、数多の雲衲の中には精英で秀俊な者がいて、いずれも頭角を現わし、禅宗そのものが高くと宣揚されるのは当然です。

各々西東五六里が間に分かれて旧舎廃宅、老院破廟、借て以て庵居の処として精苦す。朝艱暮辛（ちょうかんぼしん）、昼餒夜凍（ちゅうだいやとう）、口に投ずる者は菜葉麦麩、耳に触るる者は熱湯垢罵、骨に徹する者は瞋拳痛棒。

朝から晩までの摂心、坐禅の足の痛さ。それが朝艱暮辛、朝暮の艱難辛苦です。僧堂修行時代を思い出します。昼餒夜凍。昼餒の餒は、うえ、うえるの意味です。夜凍とは、臘八の摂心のあの寒さを思い出します。

そうして、何故そんなことをしなくてはいけないのか、禅の修行って一体、何なのか。

口に投ずる者は菜葉麦麩。僧堂の食事です。口に入るものは菜っぱのくず、ボロボロになった麦の片々。このあたりは道元禅師の「典座教訓」が参考になります。まだ読んでいなければ、是非読んでください。どうしてあのような粗食なのか。なぜなのか。

耳に触るる者は熱湯垢罵。現在は熱湯垢罵する方はいるのでしょうか？親でもほとんどいないのではないですか。それもそのはず、熱湯垢罵されようものなら、訴えられたり、雲水諸君であれば、スタコラサッサと逃げてしまうでしょうね。いつでしたか、ある僧堂で、境内で新致さんを罵倒する知客寮の大声を忘れません。

骨に徹する者は瞋拳痛棒。道元禅師が宋代に天童如浄禅師のもとで修禅しましたが、如浄禅師の指導は厳しかったと「正法眼蔵随聞記」は伝えます。参考までに。

(つづく)

お知らせ

◎ 最近特に、業者と提携して寺院に住せず修行をしたかどうかよく分からないアルバイト僧侶なる者が横行しています。派遣僧侶です。佛母寺のお檀家さんまたは佛母寺墓地に埋葬されるお檀家さんには、佛母寺の住職が戒名を授け、佛母寺の住職がお通夜・お葬式・その他一切の法要を責任を持って執り行わなければなりません。もしも、お檀家さんでお葬式を出す場合、葬儀屋さんと日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。出来るだけ調整をして、お通夜・お葬式を勤めさせていただきます。また、日程をすでに決めてしまった場合、できるだけ調整しますが、やむを得ない場合、有縁の臨済宗僧侶を紹介させていただきます。また、千葉県以外でお葬式を出す場合、臨済宗の僧籍をもつ僧侶を紹介させていただきます。葬儀の形態、場所にかかわらず、当寺のお檀家さん・当寺

墓地に埋葬されるお檀家さんがお亡くなりになった場合、葬儀屋さんとは日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。東京でお通夜・お葬式を出す場合、葬儀屋さんを紹介することもできます。

- ◎ お電話での寺務所受付は、9:00～16:30 までとさせていただきます。16:30 以降の電話はすべて龍源寺（03-3451-1853）へ転送されます。ただし、12月から2月は冬時間といたしまして、寺務所受付は9:30～16:00 とさせていただきます。
- ◎ 佛母寺墓地について一言。個人墓地内の草取り等の清浄・清掃管理については、その墓地使用者の責任範囲です（宗教法人佛母寺所有墓地使用規定第8条明記）。ご自身で草取り等をしていただきますようお願い致します。なお、墓地使用規則の定めは、当寺責任役員会の決議を経て、より明確に明記する為に近い将来に改訂されることを検討しています。
- ◎ 佛母寺で法要を申込まれた檀信徒のみを対象として、墓地掃除サービスを始めました。簡単なお掃除とお花、お線香をお供え致します。法要当日まで来山できない方はどうぞご利用ください。
 - 1) 簡単なお掃除とお花、お線香のお供え。¥10,000（税込み）
 - 2) 簡単なお掃除のみ。¥8,000（税込み）
 *簡単なお掃除とは、お墓周りの枯葉・雑草・ゴミの収集・花立の掃除を致します。
 **墓石の水拭きは致しません。
- ◎ 「佛母寺だより」は年間5回発行（新年号、春彼岸号、お盆号、秋彼岸号、年末号）です。必要のない方は佛母寺まで一報ください。発送を中止いたします。
- ◎ 佛母寺公式ウェブサイトはもうご覧になりましたか？仏事法要申込、ご祈願受付、水子供養、ペット供養、墓地、永代供養塔妙峰殿に関する事など、何でもお気軽にご質問・ご相談ください。 **website: www.butsumoji.com**
- ◎ 新年、年回が当たっておられます方は、ご法事希望の日時が決まりましたら、お電話・FAX、またはウェブサイトの「お問い合わせ」からメールにてお問い合わせ下さい。

おもな行事	
春彼岸会	3月17日(日)
妙峰殿施餓鬼会	7月第2日曜日
施餓鬼会	8月4日(土)
秋彼岸会	9月23日(月)
除夜鐘	大晦日

平成25年 正当年回表	
1 周忌	平成24年
3 回忌	平成23年
7 回忌	平成19年
13 回忌	平成13年
17 回忌	平成9年
23 回忌	平成3年
27 回忌	昭和62年
33 回忌	昭和56年
37 回忌	昭和52年
50 遠年忌	昭和39年